

203-215, 1995.

- 3) 野村靖幸：ニューロン・グリア関連の病態生理的機構。科技厅成果集，1996.
- 4) 野村靖幸：シナプスの形成と伝達の制御機構，文部省科学研究費・重点領域研究「中枢シナプス分子生物学」研究成果報告，350-353，1996.
- 5) 野村靖幸，村山俊彦，有馬 隆，徳光幸子，上原孝：脳神経細胞のアデニル酸シクラーゼ，グアニル酸シクラーゼ系に対するLiClの作用，平成7年度厚生省精神・神経疾患研究委託費「感情障害の成因と治療に関する研究」による研究報告集，71-74，1996.
- 6) 野村靖幸：平成7年度長寿科学総合研究報告書，分担研究，1996.
- 7) 野村靖幸：神経免疫相関：細胞間，細胞内情報伝達機構の研究。（財）内藤記念科学振興財団の助成金による研究報告，1996.
- 8) 松野純子，有馬 隆，堀 妃登美，難波恒雄，服部征雄，門田重利，野村靖幸：老化促進モデルマウスの空間認知機能障害に対する丹参成分Lithospermate Bの作用，和漢医薬学雑誌，1996.

免疫機能制御

客員教授 徐 強

◆ 研究概要

肝炎の発症と慢性化進行における免疫学的機序を細胞及び分子レベルで解明し，新しい肝炎治療薬の開発に役に立てることを目指して研究を行っている。すでに肝炎の細胞免疫性病理過程を動物にて模擬し，遅延型免疫反応による新しい肝障害モデルの作成に成功した。さらに，この肝障害の慢性化進展および薬効評価モデルとしての有用性などを証明し，その発症と進展に対してそれぞれ改善作用を示す漢方方剤や生薬およびその活性成分をいくつか見出した。

本年度もこのモデルを用いて肝障害の発症と慢性化進展における分子機構，とくに細胞接着およびサイトカインの役割などについて研究を試みており，これらに対する生薬及びその成分の影響についても研究を続けている。

◆ 著 書

- 1) 潘映君主編，他編：中薬薬理学，上海科学技术出版社，上海，1996.

◆ 原 著

- 1) Xu, Q., Wang R., Jiang J., Wu F., Lu J., Tan P. K., and Xu L.: Liver injury model in mice induced by a cellular immunologic mechanism — delayed-type hypersensitivity-induced liver injury to picryl chloride and phenotype of effector cell. Cell. Immunol., 167: 38-43, 1996.

◆ 学会報告

- 1) Xu Q., Wu F., Lu J., and Jiang J.: Chronic development of delayed-type hypersensitivity-induced liver injury to picryl chloride and effect of some drugs on it. The fourth Japan-China joint meeting on pharmacology, 1996, 10, p. 48, Fukuoka.
- 2) 徐 強：肝炎の漢方療法及び新薬研究の新しい試み。第5回国際伝統医薬シンポジウム，1996，11，p. 175-181，富山。

◆ その他

- 1) 徐 強：漢方理論の近代科学認識と動物モデルによる薬効評価。富山漢方会，1996，12，20，富山。